

令和6年度学校推薦型選抜

小論文課題

〔設問〕

次の文章を読んで、下線部をふまえて、「リスク回避」についてあなたの考えを600字以内で述べなさい。

脳卒中が死につながる、あるいは重篤な後遺症を残し得る病気であることは、広く知られる事実であろう。しかし先のデータを読み、目の前に迫りくる危険として脳卒中を捉える読者はどのくらいいるだろう。この数値を聞かされ、うすぼんやりと食事に気を付けよう、運動をしたほうがいい、と感じる人はいるかもしれない。しかしたいていの場合、この決意は持続しない。今、仮にそう思っても、明日になればその不安は意識の彼岸に遠のき、これまでと同様の生活を続ける人がほとんどのはずだ。

私たちは、脳卒中のような致命的な病気に明日罹患するかもしれない危険を突き付けられても、それを気にせず生きていく力を持っている。4人に1人と言われても、自分がそのひとりになるはずはないとどこかで確信しながら生きることができる。脳卒中に始まり、糖尿病、がん、心不全といったさまざまな病気の啓発活動が絶えることなく世界各地で行われているのは、未来のさまざまな危険を突き付けられても、それを大して気にせず生きることのできる力を我々が持っているからである。

しかし予防医学を推進する側にとってこの力は障害となる。なぜなら予防医学とは、当該の病気がもたらす苦痛を除去するため、「大して気にせず」生きている人に「気にさせる」ことを目的とする医学だからである。

とはいえ、経験したこともない病気のことを心配させ、その病気になることを避けるための対策をとらせるにはどうしたらいいのだろう。対象者がその病気による苦しみを経験しておらず、またその経験を実際にさせないことが目的である以上、残された方法はひとつしかない。それは、今と未来をつなぐ力である想像力に介入し、リスクの実感をそこから本人のうちに立ち上げることである。

【磯野真穂『他者と生きる リスク・病い・死をめぐる人類学』より抜粋】